

平成28年  
亀山市成人式

# 新成人、晴れやかに

新成人の皆さん、ご成人おめでとうございます。今年、成人式を迎えたのは、平成7年4月2日から平成8年4月1日までに生まれた人で、454人が晴れて新成人となりました。

亀山市では、1月10日に市文化会館で成人式を開催しました。笑顔で再会した新成人たちは、記念すべきこの日をみんなで祝い、そして大人への新たな一歩を踏み出しました。





# 新成人のこぼ

※新成人を代表して発表された「新成人のこぼ」をご紹介します。

## さまざまな場面で多くの人たちを 支援していける存在になりたい



かねさき しゅん  
**金崎 舜さん**  
(川合町)

[かめやま「江戸の道」シティマラソン招待選手]

私は、小学生のときから走ることが大好きでした。とにかく「ずっと走りたい」という気持ちが強く、中学生になったら陸上部で長距離走に挑戦したいと思うようになりました。

中学に入り、あこがれの陸上部で本格的に長距離走に取り組み、ますます陸上にのめり込むことになったのは、練習で走った距離

や時間が結果として、「タイム」にあらわれてくることでした。それは同時に、自分の課した目標に対しての達成感を味わうためには、毎日の練習の積み重ねが大切だと気づき、早朝練習も含めて部活で誰よりも長い時間の練習を続けました。

ところが、なかなか「タイム」が伸びず、走ることに体が辛くなってきた時期がありました。そんな時、顧問の先生から『続けていたらいつかはきっと速くなれるからあきらめるな』という言葉いただきました。さらに、ふと周りをみると、同じ仲間が一生懸命練習している姿がありました。先生の言葉と仲間の姿から「もう一度頑張ってみよう」という思いが強くなり、進学した高等専門学校でも、さらに練習を重ねることができました。その結果、高等専門学校全国大会で優勝することができました。

その大きな喜びを手にした時、私は大切なことに気づきました。本当に辛い時に力になってくれるのは、毎日指導してくださる顧問の先生、陰ながら支えてくれる家族、陸上を続けている仲間でありライバルのみんなであることを学びました。今まで、自分一人で頑張ってきたように思っていたのですが、実は多くの人の支えや思いが、私の「走ること」に繋がっているのだと強く感じるようになりました。

私は今でも陸上を続けていますが、どんなときも顧問の先生からいただいた言葉、「頑張れ」と背中を押してくれる同級生や友達、また、いつでも「お疲れさま」と言って迎えてくれる家族のおかげで、今も厳しいトレーニングを続けることができています。その想いを胸に、これからもより高いレベルを目指すとともに、自分が走れる限り私のライフワークとして走り続けていきたいです。

将来、私が今学んでいる「材料工学の知識」を活かして、社会の役に立ちたいと思います。同時に、私のように走り続けている人の思いを汲み取り、さまざまな場面で多くの人たちを支援していける存在になりたいです。

## チャレンジ精神を持って 社会人として貢献したい



いわま りな  
**岩間 梨奈さん**  
(みずきが丘)

私は、小学生の頃からいろいろな経験をすることが大好きでした。とにかく「どんなことにも挑戦したい、やりたい」という気持ちが強く、ピアノ、新体操、バスケットボール、習字、勉強など、さまざまなことを「私からやりたい」と言って、自ら望んでやってきました。やるからには、何でも全力で取り組み、なかでも特に好きになったバスケットボールや勉強することは今でも続けています。

高校3年生の時、ずっと前から望んでいたケーキ屋で働くために製菓の専門学校に行くか、私が好きな生物学を学ぶために大学に行くか、進路について迷うことがありました。その時も、私のチャレンジ精神に従い、「私が好きなことをやりたい、大学に進めば専門学校よりももっと大きな出会いがあるはず」と思い、大学に行く決意を固めました。

私は今、三重大学に通っています。毎日の授業、部活、サークル、アルバイトなどを通して、年齢や出身、興味、目標の異なる多くの人との出会い、関わりがあるなかで刺激を受けています。

今でも変わらない私のモットーは、いろいろな経験を率先してやっていくことです。毎日の授業、新たに入ったダンス部、今も続けているバスケットボール、アルバイトでしている塾の学生相談員、周辺の大学から人を誘い立ち上げたコミュニティ活動など、忙しいけれどとても楽しい毎日を送っています。

今、こうして毎日楽しい学生生活を過ごせるのも、両親の大きな存在があるからです。私や二人の妹のために、一生懸命、仕事や家事に務めてくれて、経済面や生活面で支えてもらっています。私の帰りが遅くなった時や、外食が続くと、『身体を大切にしなアカンよ、健康が何よりやからね』と、何よりも健康を気遣ってくれます。私もそんな両親のように、人への気遣いができるような人になりたいです。

私の将来の夢は、「理科の先生になって子どもたちのために学ぶことの大切さ、おもしろさを伝えるために一生懸命頑張ること」あるいは「食品会社で働き、食品を通じて人を喜ばせたいこと」と思い描いていますが、これからの大学生活の課程でしっかりと見極めていきたいと思っています。そして将来は、多くの人のために役に立てる仕事に就き、社会人として貢献していきたいです。